

芙蓉リースグループ
CSR報告書2013
ハイライト版



FUYO LEASE

前例のない場所へ。

私たちは考える。
 リースとはモノを貸すことではない。発想を、頭脳を、
 驚きを貸すことだ。
 私たちは考える。
 無理難題こそ歓迎したい。新たなビジネスは、
 そこからしか生まれない。
 私たちは考える。
 期待に応えるのは義務である。
 期待を超えてこそ仕事である。
 私たちは考える。
 ともに成功するのはたやすい。苦しい時も向き合えるのが
 パートナーである。
 私たちは行動する。
 この国のビジネスを、もっと自由にするために、
 私たちから大胆になる。
 リースにできることを広げてゆく。
 私たちは芙蓉リースです。

CONTENTS

- 1 コーポレートスローガン
会社概要
- 2 トップメッセージ
- 3 東京3Rセンターの開設とリマーケティング事業
- 5 ソーラー発電事業
- 7 PC Eco & Valueリース、PCレンタル
- 9 ESCOサービス
- 10 担当役員メッセージ
環境負荷低減の実績
- 11 東日本大震災被災地の復旧・復興支援
——滞在型ホテル事業
- 12 社会貢献活動 —— アクアdeスマイル
- 13 職業体験機会の提供 —— インターンシップ
働きやすい職場づくり —— ワークライフバランス
- 14 社員に対する環境教育

企業データ (2013年3月31日現在)

商号 芙蓉総合リース株式会社
(Fuyo General Lease Co., Ltd.)

設立 1969年5月1日

資本金 10,532百万円

上場市場 東京証券取引所 市場第一部
(コード:8424)

従業員数 連結1,500名、単体658名

本社所在地 東京都千代田区三崎町3丁目3番23号
(ニチレイビル)
TEL: 03(5275)8800(代)

事業内容

- 情報関連機器、事務用機器、産業機械、
工作機械、商業用店舗設備、医療機器、船舶/
航空機/車両ならびに輸送用機器、建築土木
機械などのリースおよび割賦販売業務
- 金銭の貸付、その他各種金融業務
- 不動産リース
- 生命保険の募集業務
- 各種コンサルティング業務

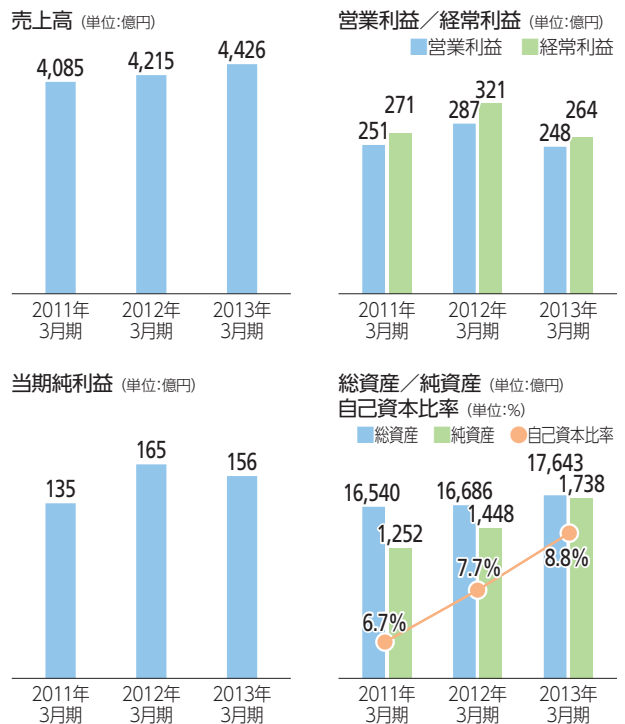
営業拠点

- 本社営業部
- 国内支店: 21カ所
- 海外現地法人: 4社5拠点

主な国内
連結子会社

- 芙蓉オートリース株式会社
- 株式会社エフ・ジー・エル・サービス
- 株式会社芙蓉リース販売
- 株式会社アクア・アート
- 株式会社エフ・ネット
- 株式会社ワイ・エフ・リーシング
- シャープファイナンス株式会社

業績などの推移(連結) ※3月決算



「前例のない場所」をめざして

取締役社長 佐藤 隆



2012年度は、混迷した政治・経済情勢が国内外で続く1年でしたが、我が国経済に限れば、12月の新政権発足以降、経済政策に対する期待感から円安・株高が進行し、輸出関連企業を中心に業績の改善が進みつつあります。しかしながら、グローバルレベルでの競争は厳しさを増し、多くの企業で合理化や効率化など足元の強化が大きな経営課題となっています。

また、東日本大震災の被災地においては、復旧・復興に向けて一層の支援が求められています。なかでも福島第一原発は40年かかるとされる廃炉作業の入り口の段階にあり、依然として先行きが不確実な状況が続いています。この原発事故に端を発した電力問題に加え、繰り返される異常気象・自然災害への対策は日本社会が抱える重要課題であり、不断のエネルギー・環境施策が求められています。

こうしたなか、私は当社グループが果たすべき役割はますます大きくなっていると感じています。なぜなら“物”と“ファイナンス”を自在かつ最適に組み合わせることで、お客様の設備投資や販売促進、資産管理や事務合理化、環境負荷の低減などをサポートすることが我々の使命であり、真摯に、そして誠意を持ってそれらに取り組む

ことが、社会の発展や社会的課題の解決につながっていくと確信しているからです。

例えば2012年度は、太陽光発電を主体とした再生可能エネルギー分野の取り組みで大きな成果を得ました。当社のファイナンス機能とソリューション提案を駆使して、お客様の発電事業に数多く貢献することができました。この分野では、当社自ら合弁型の発電事業に参画していますが、2013年度にさらに事業を拡大していきます。

一方で、当社グループは、事業活動の推進に伴う社会的責任の履行にも努めています。2012年度は、リース満了物件処理や中古物件を買い取るリマーケティング事業をさらに強化するため、「立川リユースセンター」を八王子市へ移転するとともに、名称を「東京3Rセンター」と改め、処理能力を従来の倍以上に高めました。今後も同センターを中心に3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進を図ります。

当社グループは、「前例のない場所」をめざし、社員一丸となって知恵を出し合い、大胆に行動していきます。そして、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様の期待を大きく超える企業グループであり続けたいと考えています。



循環型社会構築に寄与するために

■ 新拠点「東京3Rセンター」を開設

画面左側は、データ消去を行う専用のセキュリティルーム

芙蓉リースのリース満了処理を担当するグループ会社 芙蓉リース販売は、主にリース満了物件のリユース(再商品化)を行ってきた旧「立川リユースセンター」を、2013年3月に「東京3Rセンター」と名称を改め、東京都八王子市に移転・拡充しました。

新しい「東京3Rセンター」では、リース満了物件のリユースのみならず、リース満了物件以外の中古資産を企業や自治体・学校などから買い取って再販する「リデュース(廃棄物の発生抑制)」と、リユースが困難な物件を金属などの資源として分解・分別する「リサイクル(再生利用)」機能をさらに強化しました。

「東京3Rセンター」は、旧センターと比べて広さが1.5

倍、処理量も2~3倍となり、2013年上半期には3万点の取り扱い点数を見込んでいます。センターに搬入された物件は可能な限り3R(リデュース・リユース・リサイクル)に努め、循環型社会構築に寄与する施設運営を目指しています。

新センターも、旧センター同様にISO14001、27001(ISR業務)認証を取得しており、万全の環境対策、情報セキュリティ対策を構築しています。



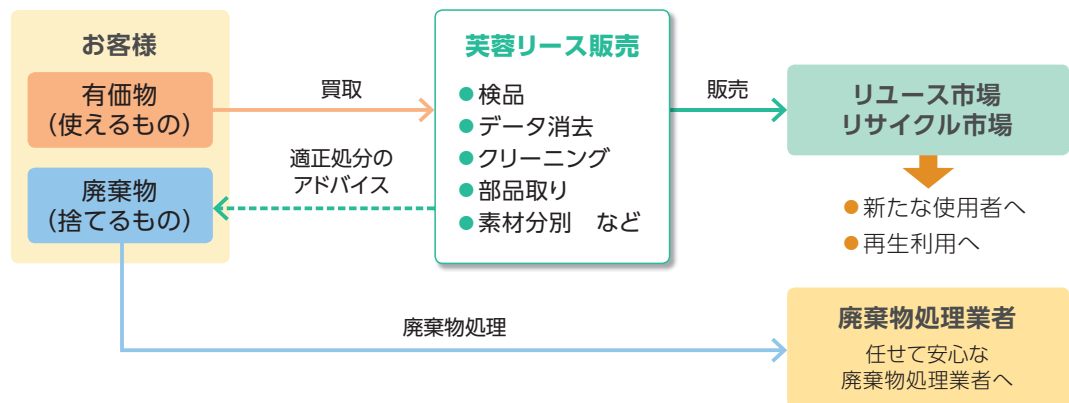


芙蓉リース販売のリマーケティング事業

長年培ったリース満了物件処分のノウハウを活かして、環境に配慮した最適なソリューションをお客様に提供するのが、芙蓉リース販売のリマーケティング事業です。

事務所の移転や機器の入れ替えなどで発生する不要資産は、捨ててしまえば「廃棄物」となり、廃棄費用もかかります。そこで、芙蓉リース販売では、これらの中古資産を有価で買い取り、リユース・リサイクル市場へ再販しています。また、パソコンのデータ消去や、お客様の廃棄物に関する適正処分のアドバイスも行っています。

●リマーケティング事業の仕組み



Customer's VOICE

●南海マネジメントサービス株式会社 情報サービス部 課長 佐藤 広行 様



当社は、南海電鉄グループのシェアードサービス会社として、南海電鉄およびグループ会社のITに関する開発・運用・保守や経理業務のシェアードサービスを主業務としています。

2013年2月に本社移転を行うにあたり、不要となるデスクやキャビネットなど中古什器の処分に頭を悩ませていましたが、タイミングよく芙蓉リース販売から提案を受けて、同社への売却を決定。サーバールームのアルミ製床材まで売却対象となったのには驚きました。

同時に進めていたパソコンの入れ替えで発生する1,000台以上の中古機も、同社に売却して、データ消去も依頼しました。



芙蓉リース販売は、迅速かつ丁寧な対応で、情報セキュリティ面でも安心です。環境配慮とコスト削減、複雑な作業をアウトソーシングできる同社のリマーケティング事業は、実に頼りになります。



再生可能エネルギーの普及・拡大を推進

I 共同出資会社を通じ、メガソーラー事業へ参画

桧垣本太陽光発電所(奈良県吉野郡大淀町)

2012年7月に、太陽光、風力などの再生可能エネルギーによって発電した電気の買取りを電力会社に義務づけた「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」が始まり、社会全体で再生可能エネルギーを普及・拡大させていこうという気運が高まっています。

芙蓉リースでは、こうした社会要請に応えるため、シャープ株式会社と共同出資^{※1}で合同会社クリスタル・クリア・ソーラーを設立。自治体や企業の遊休地などを活用し、メガソーラー(大規模太陽光発電所)の事業展開を始めました。

2012年度は、大阪府泉南郡岬町、栃木県矢板市、奈良県吉野郡大淀町の3カ所の発電所で、いずれも2013年3月に商業運転を開始しました。年間予測発電量は3カ所合計734万kWhで、一般的な家庭の年間消費電力量に置き換えると約2,000世帯分^{※2}に相当します。

2013年度は、奈良県吉野郡吉野町、北海道苫小牧市、広島県三原市など、さらに8カ所の発電所が稼働する予定です。

※1 出資比率 芙蓉リース75%、シャープ25%

※2 1世帯当たり3,600kWhで算出



多奈川太陽光発電所(大阪府泉南郡岬町)

各種ファイナンス機能を通じてソーラー発電事業に貢献

芙蓉リースでは、太陽光パネルのリースやファイナンス(融資)に積極的に取り組み、お客様の発電事業に貢献しています。2012年度の総取扱高は約69億円。2013年度は2倍程度まで取り組みを増やす計画です。

case
1

リース

老舗総合建設会社の太陽光発電事業に太陽光パネルをリース

Customer 松井建設株式会社

松井建設株式会社(本社:東京都中央区)は、天正14年(1586年)の創業以来420年を超える歴史を持つ老舗総合建設会社です。芙蓉リースは、同社が開始する太陽光発電事業に、太陽光パネルをリースしています。

発電所名 松井建設ふくおかソーラー発電所

所在地 福岡県三井郡大刀洗町

年間予測
発電量 約28万kWh

稼働開始 2013年9月



case
2

ファイナンス(融資)

国内最大級の太陽光発電事業に対する協調融資団に参加

Customer 鹿児島メガソーラー発電株式会社



鹿児島メガソーラー発電株式会社(本社:鹿児島県鹿児島市)が開始する、国内最大級の太陽光発電事業。その年間予測発電量は、一般的な家庭の約22,000世帯分に相当します。芙蓉リースは、この太陽光発電事業に対する協調融資団に参加しています。

発電所名 鹿児島七ツ島メガソーラー発電所

所在地 鹿児島県鹿児島市

年間予測
発電量 約7,880万kWh

稼働開始
予定 2013年秋

青山商事株式会社



環境配慮と経済性の両立をめざす お客様をサポートするために

■ Windows XPサポート終了に備えた2,100台のパソコンをリース

Customer's VOICE

● 青山商事株式会社 IT・システム部 様

スーツ販売着数世界一の企業として、着る人にやさしい、そして地球環境にもやさしい企業でありたい。そのような思いから、「Team AOYAMA Eco Project 環境方針」を定め、環境に配慮した事業活動に取り組んでいます。オフィス・店舗・配送などすべての活動において省エネルギー・省資源活動を推進し、その一環として、従来からパソコン導入に際して芙蓉リースのリースやレンタルを利用しています。

2012年9月には、2014年4月に予定されるWindows XPのサポート終了に対応するため、芙蓉

リースの「PC Eco & Valueリース」を利用して2,100台のパソコンを一斉に入れ替えましたが、「PC Eco & Valueリース」はリース料が安いだけでなく、リース満了後のリユース(再利用)体制が整っている点でも、当社の環境方針にマッチしたサービスとして評価いたしました。今後も芙蓉リースの環境に配慮した最適なソリューション提案に期待しています。



パソコンのリユースと調達コスト削減に貢献する 「PC Eco & Valueリース」「PCレンタル」

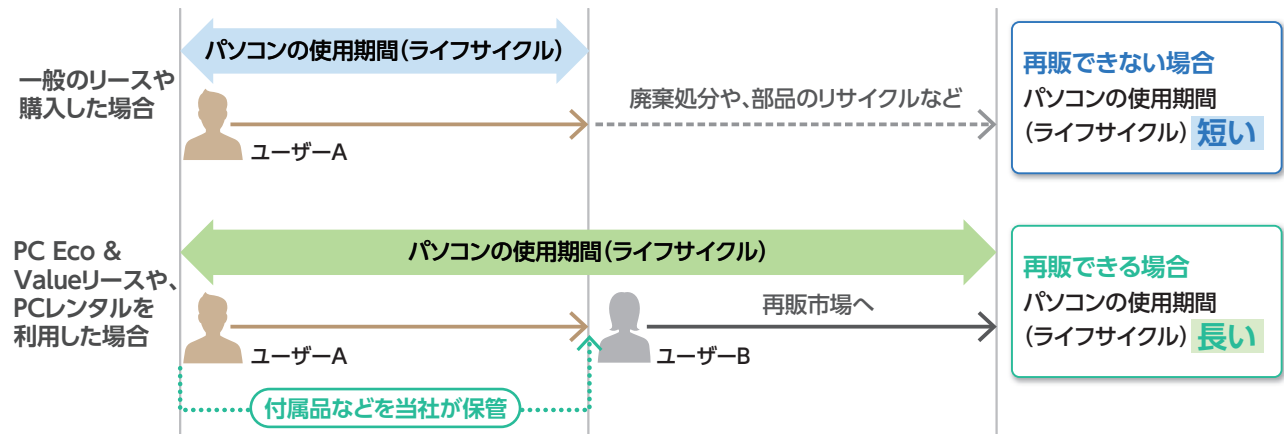
日進月歩のパソコンの技術革新。基本ソフト(OS)に対するメーカーサポートの終了や、タブレット端末の普及など、パソコンを取り巻く目まぐるしい環境変化。そうした状況下、「短期のサイクルで最新のパソコンに入れ替えたい」というお客様のニーズにお応えするのが、芙蓉リースが提供する「PC Eco & Valueリース」と「PCレンタル」です。

芙蓉リースでは、これらのサービスを提供するため、グループ会社エフ・ネットとともに、中古パソコンを再商品化する体制を整えています。一般のリースなどでは散逸

してしまうパソコンの付属品を保管しておき、リース・レンタルが満了して返還されたパソコンに「データ消去」などの適切な処置を施して、再販(まだ使用できるものを、使いたい方の手にお渡し)します。

中古パソコンのリユース(再利用)促進が図れるだけでなく、パソコン返却時の中古価値を見込んでリース・レンタル料を設定するため、一般のリースよりも安い料金でご利用いただけます。お客様には、環境貢献とコスト削減を両立するサービスとして、たいへん好評です。

●「PC Eco & Valueリース」と「PCレンタル」のイメージ



パソコンのリユース拠点

エフ・ネット「深川テクニカルセンター」

Provide Fastest-moving NETWORK solution for you
Fnet
The World is moving to Networking. We'll take you there.



「PC Eco & Valueリース」「PCレンタル」のリユースを支えているのが、グループ会社のエフ・ネットです。同社の「深川テクニカルセンター」では、毎月約4,000台(年間約5万台)の中古パソコンを受け入れ、データの消去や動作チェックなど、再商品化のための作業を行っています。



データ消去、動作チェック



保管していた付属品などをセット



再販市場へ



施設の省エネ化・ 価値向上に貢献

道内最大、国内でも有数の規模となる ESCOサービスを開始

ショッピングモール／サンピアザ1階の「光の広場」



芙蓉リースとアズビル株式会社で構成する事業者(代表:アズビル)は、株式会社札幌副都心開発公社が運営・管理する複合商業施設「新さっぽろアーキシティ」におけるESCOサービスを2013年4月から全面的に開始しました。

「新さっぽろアーキシティ」は、札幌市の東部・厚別区に位置しJR新札幌駅に隣接するショッピングモール「サンピアザ」「デュオ」ならびに「アーキシティホテル」からなり、延べ床面積約17万1千㎡、入居テナント200店、年間来客数1,440万人の大規模複合商業施設です。

老朽化した空調や照明などの設備更新が課題でしたが、ESCOサービス^{※1}を活用して、BEMS^{※2}導入による各種制御システムの改善や運転管理の効率化、高効率冷凍機の導入と運転方法の最適化、照明機器のLED化など23項目の改修工事を進めてきました。

すでに、2012年4月から一部のサービス提供が始まっており、当初の計画を上回る効果が表れています。

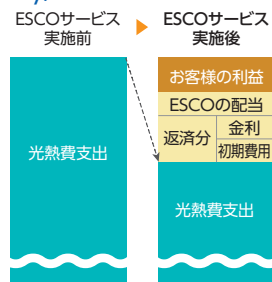
●新さっぽろアーキシティにおけるESCOサービスによる効果

	計画	2012年度実績
エネルギー使用量削減率	10.0%	16.2%
CO ₂ 排出量削減率	10.9%	16.6%
水道光熱費削減率	11.9%	19.3%

削減率は、2007-09年の平均値をベースに比較しています。

※1 ESCO(Energy Service Company) サービス

ESCOサービスとは、省エネに関する提案や設備導入、資金調達など包括的なサービスを提供するもので、お客様はサービスを利用することで削減されたコストからESCO事業者が費用を支払うため、追加費用を負担せずに省エネを実現でき、将来的な経費を削減することもできます。芙蓉リースでは、2006年に「エネルギー・環境営業室」を設置して



以来、ESCOサービスの取り扱い実績を伸ばし、多くの自治体や民間企業のお客様に幅広くご採用いただいています。

※2 BEMS (Building and Energy Management System)

室内環境とエネルギー消費の最適化を図るためのビル管理システム。

CSR活動のさらなる進化をめざして

担当役員メッセージ



常務執行役員
藤田 義治

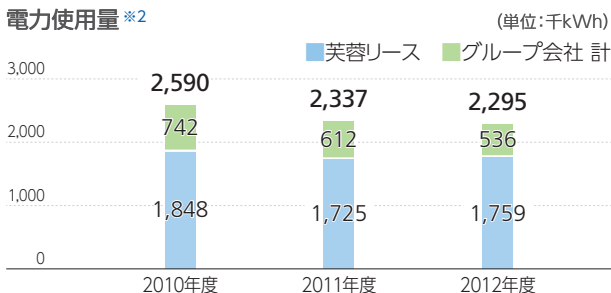
「日本のCSR元年」といわれる2003年から10年。この間、企業のCSR活動のあり方についてはさまざまな議論がなされていますが、私たちは、社会や関連するステークホルダーの真のニーズを把握し、自らの特性を活かしたCSR活動に取り組むことが何よりも重要だと考えています。

もちろん、事業活動を通じた社会的課題の解決であっても、寄付やボランティア活動であっても、成果を得るまでには多少の失敗を伴うこともあれば、試行錯誤が必要な場合もあります。それでも、それらを乗り越え、大きな成功につながった時に得られる「相手に感謝された喜び」「役に立ったという達成感」は、何物にも代えがたいものです。

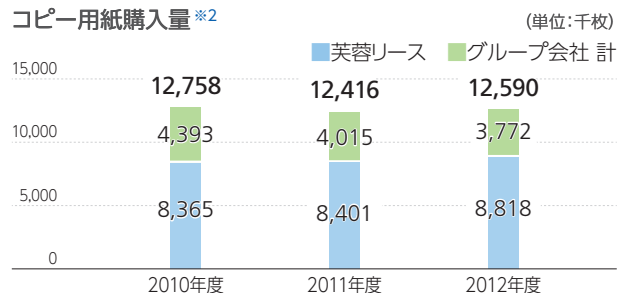
このことは、何が必要かを真剣に考え、取り組んだ当事者にとって新たなモチベーションになり、自信と誇りになります。当社グループは、こうした「CSRマインド」を、社員すべてと共有し、今後も新たなチャレンジを続けていきたいと考えています。

●環境負荷低減の実績※1

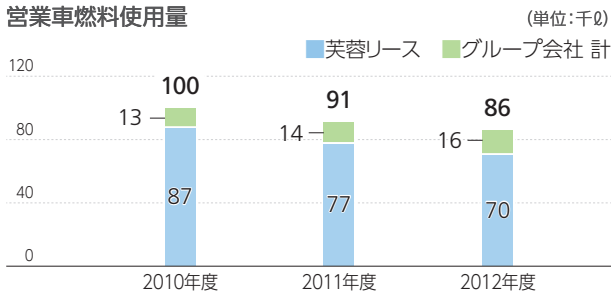
電力使用量※2



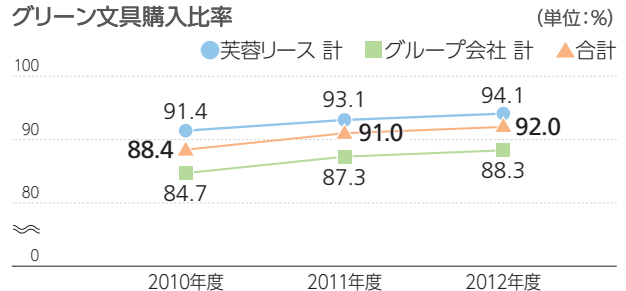
コピー用紙購入量※2



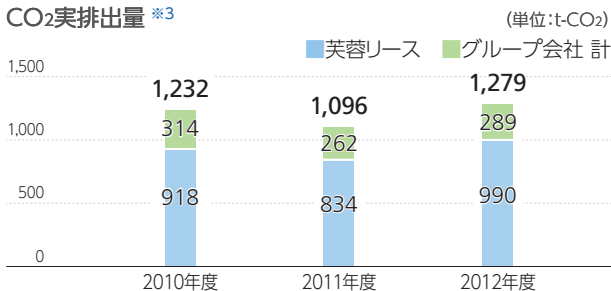
営業車燃料使用量



グリーン文具購入比率



CO₂実排出量※3



※1 対象範囲は、芙蓉総合リース、芙蓉オートリース、エフ・ジー・エル・サービス、芙蓉リース販売、アクア・アート、エフ・ネット、ワイ・エフ・リーシングの国内全事業所。

※2 2012年度の電気使用量、コピー用紙購入量が芙蓉リースで増加し、グループ会社で減少しているのは、日本抵当証券が2012年4月1日に芙蓉総合リースと合併したためです。

※3 CO₂実排出量は、「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」の排出係数を用いて算定。(電気については各年度の電気事業者別の実排出係数を用いて算定。)ただし、芙蓉リース、およびグループ各社は、特定排出者には該当しません。
なお、2012年度は電気事業者の排出係数が大きくなったため、電気使用量が減少したにもかかわらず、CO₂排出量が増加しています。

原発廃炉作業者の通勤負担を軽減

滞在型ホテル事業「バリュー・ザ・ホテル広野」



バリュー・ザ・ホテル広野(福島県双葉郡広野町)

福島第一原子力発電所から南に20.4kmの位置に、2013年2月にオープンした「バリュー・ザ・ホテル広野」。主に原発作業者を対象としたこのホテル事業で、芙蓉リースはファイナンス面を担当し、建物リースで復興支援に貢献しています。

同ホテルのオープン前は、原発作業者の多くが、原発から40km以上離れた県内外から通勤していました。この課題解決を目指し、当社と建設を行う大和ハウス工業株

式会社、運営を行う価値開発株式会社が進めてきたのが、このホテル事業です。実際の運営は、価値開発株式会社が100%出資する株式会社バリュー・ザ・ホテル福島が担っています。現在、原発作業のほか、除染、火力発電所の点検・運転、周辺道路の警備・検問などの作業に携わる方々がホテルを利用しており、通勤環境は大きく改善されました。

Customer's VOICE



株式会社バリュー・ザ・ホテル福島 バリュー・ザ・ホテル広野 支配人 高橋 政美 様

当ホテルのメリットは、何よりも作業現場に近いこと。個室で過ごしていただけるので、住環境も改善し、宿泊者の方にたいへん喜ばれています。

今後は、警戒区域の縮小に伴い住宅修復に携わる方々も増加すると見込まれます。

長期滞在の方が多く、朝夕食のメニューを充実させるなど、さらに快適に過ごしていただけるよう工夫していきたいと思っています。

インテリア水槽を使った社会貢献活動を推進

環境教育や癒しを通じ、人の笑顔を広げる「アクアdeスマイル」



芙蓉リースでは、グループ会社のアクア・アートとともに、インテリア水槽「AQUA ART」を使った社会貢献活動「アクアdeスマイル」を推進しています。

地元の幼稚園や保育園には環境教育用教材として、また、母子生活支援施設や障がいがある方の就労支援施設などには「心の癒し」に役立ててもらうために、「AQUA ART」の寄贈(無償レンタル)を続けています。寄贈台数は、

2012年度末までに30台になりました。寄贈先の皆様にもっと喜んでいただけるよう、児童向け「環境教育イベント」として社員による出前授業も新たに始めました。

「アクアdeスマイル」は、「AQUA ART」を広めることで「多くの人の笑顔が見たい」という思いから名付けました。芙蓉リースとアクア・アートは、今後も多様な「アクアdeスマイル」活動を実施していきます。

くらしの中に自然を——「AQUA ART」

「AQUA ART」は、100匹以上の熱帯魚やエビ、貝、水草などを使い、自然界の仕組みをそのまま水槽の中に再現させた自社商品(レンタル・システム)です。

水槽内の食物連鎖は「バランスド・アクアリウム」と呼ばれ、このバランスを維持するためにアクア・アートの社員が万全のメンテナンスを行います。



水槽を囲む就労支援施設の皆さん

次代を担う学生に職業体験の機会を提供

働く意義を伝えるインターンシップ

芙蓉リースでは、将来、社会を担っていく若者たちに働く意義を伝えることを目的に、大学生・大学院生を対象に仕事の一部を体験できるインターンシップを開催しています。

2012年は8月20日～23日の4日間に17名が、2013年は8月19日～23日の5日間に22名が参加しました。リースビジネスを身近に感じてもらうため、リースの基本などを講義形式で学んだ後、社員への取材やお客様への同行訪問などを実施しました。さらに、若手・中堅社員を交えて、意見交換・質問をしながら「働くこと」について考える懇談会も開きました。参加した学生たちからは、「働くことへの理解が深まった」「仕事への期待感が生まれた」「社会人になる心構え、必要なスキルやマナーが学べた」といった感想が寄せられました。



プレゼンテーション



社員との懇談会



同行訪問

働きやすい職場づくり

社員のワークライフバランスの実現を支援



育児に奮闘中のワーキングマザーと育メン社員



芙蓉リースでは、2005年に次世代育成支援対策推進法が施行されて以来、同法に基づき「一般事業主行動計画」を2年ごとに策定し、次世代育成支援のための雇用環境の整備に取り組んできました。

その結果、次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画を達成し、仕事と家庭の両立支援に積極的に取り組んでいる企業として、2007年、2009年、2011年に続き、2013年も東京労働局から「基準適合一般事業主」の認定を受け、厚生労働省の「次世代認定マーク」(愛称:くるみん)を取得しました。

なお、これまで延べ約80名が育児休業を取得し、その大半が育児休業から復職しています。2012年度末現在、育児休業を経て、子育てをしながら活躍しているワーキングマザーは、女性社員の2割を占めています。



次世代認定マーク(愛称「くるみん」)

次世代育成支援対策推進法に基づく自主的な行動計画を達成するなど、認定基準を満たした企業に対して厚生労働大臣から付与されるマークで、愛称は「くるみん」です。

環境教育を推進

サンデンフォレストで「生物多様性」を学ぶ



芙蓉リースでは、環境教育の一環として、新入社員研修に「生物多様性」を学ぶ体験学習を新たに導入しました。カーエアコンのコンプレッサーにおいて世界シェア25%のサンデン株式会社の全面的な協力を得て、2013年5月、19名の新入社員が「サンデンフォレスト・赤城事業所」を見学。リース会社の社員が、日頃体感する機会の少ない「生物多様性」について学びました。



サンデンフォレストは、「環境と産業の矛盾なき共存」というコンセプトのもと、民間初の大規模な「近自然工法^{*}」を導入して、2002年に群馬県赤城山麓に開設された事業所です。東京ドームの15倍に及び敷地の半分が森林として整備され、開設から10年を経た現在、継続的な調査によって生物多様性の改善が確認されています。研修では、同事業所の生産工程における各種の環境対策を見学した後、周辺の森やビオトープを散策しました。サンデン株式会社の先進的な「環境への取り組み」を実地で学んだ本研

修は、新入社員にとって「環境に配慮した事業活動の重要性を認識する」貴重な体験となりました。

※近自然工法

自然本来の回復力で生態系を復元できるよう、人間の手でその最初の段階をつくりあげる工法のこと。



サンデンフォレスト・赤城事業所

編集方針

Webサイトとの情報の切り分けを図り、より読みやすくコンパクトな冊子にしました。

「CSR報告書2013／ハイライト版」では、進捗のあった取り組みや注力している取り組みをコンパクトにまとめました。

詳細な情報はWebサイトに掲載しています。グループ各社の取り組みもWebサイトで報告していますので、ぜひご覧ください。

報告対象組織

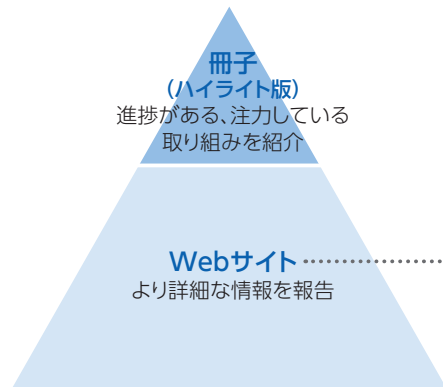
芙蓉総合リースおよび連結子会社32社および
関連会社3社

報告対象期間

2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)
※一部、対象期間外の報告を含んでいます。

発行時期

2013年10月(前回発行2012年10月)



Web <http://www.fgl.co.jp/csr/>

表紙について

作品タイトル:『花咲かくじら』(作者:ミヤザキ ケンスケ 氏)

水をまきながら、ゆったりと空を飛ぶ鯨と、その下を彩る一面の花、そして楽しそうな子どもたち。ユニークで豪快なこの作品は「ART GIVING Project」が提供するストックアートの1つです。「ART GIVING Project」とは、多数のアーティストやクリエイティブ業界各社が参加する東日本大震災被災地の復興支援活動で、作品使用料の半額は被災地支援に役立てられています。

芙蓉リースは、さまざまなかたちで被災地の復興を応援していきたいとの思いから、同プロジェクトが提供する作品を表紙ビジュアルに採用しました。

(c) MIYAZAKI KENSUKE/ART GIVING Project/amanaimages



アートでつながる
支援システム
ART GIVING Project

FUYO LEASE

芙蓉総合リース株式会社

〒101-8380
東京都千代田区三崎町3丁目3番23号(ニチレイビル)
TEL:03(5275)8800(代)
<http://www.fgl.co.jp/>

「CSR報告書2013」お問い合わせ先
コーポレートコミュニケーション室
TEL:03(5275)8891 FAX:03(5275)8950



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



FSC認証用紙の使用
「適切に管理された森林からの木材(認証材)」を原料として、FSC(Forest Stewardship Council、森林管理協議会)の基準に基づいた紙を使用しています。



環境負荷のより少ない植物由来のベジタブルインキを使用しています。